



伝説川師宣「美人聞香図」  
香文化資料室 松栄堂松寿文庫

## 2021年度 共立女子大学・共立女子短期大学 地域連携プロジェクト

# 日本古典文学と香りから考える持続可能な社会

代表者：文芸学部 岡田ひろみ

### 《目的》

本プロジェクトの目的は、わが国の古典文学や伝統文化を継承することである。具体的には、『源氏物語』などの平安文学に点描された香文化を通して、学生とともに日本の伝統的な言語文化、芸道を体験・探究し、その成果を学生や地域社会にひらいてゆく。

今回、伝統文化として取り上げる「香（こう）」は、中・高等教育であまり目配りされることがなく、近年、衣住環境を充実させるための香りが科学的に安価に生産され浸透してきているにも拘らず、忘れられがちである。そこで、これまでの研究成果や企業との連携によって、親しみやすく継承しやすい伝統文化として学生たちに紹介する。その際、香老舗・松栄堂による講演、および日本古典文学を教材として利用する。

物質的豊かさを重視する実学主義の現代社会において、日本古典文学や伝統文化は軽視されがちだが、それらは多様な価値観や広い視野、精神的豊かさを得るために必要不可欠である。このプロジェクトを通して得られた知識・教養は、多様性を重視するこれからのグローバル化社会において、商・産業の発展や国際交流のためにも有益なヒントとなると考えている。

### 《プロジェクト内容・結果》

本プロジェクトは、上記代表教員以外に、生活科学科 渡辺明日香、文科 咲本英恵が携わった。それぞれの教員が担当する「日本文学演習ⅡB」（文芸学部）、「卒業研究・卒業制作」「卒業ゼミナール」（生活科学科）、「文学と言葉のセミナー」（文科）の授業を中心に実践した。以下、この1年で行ったプロジェクト内容である。

- ◆2021年7月 合同授業：株式会社松栄堂社長 畑正高氏「古典文学と香文化」講演会
- ◆2021年10月 合同授業：株式会社松栄堂社長 畑正高氏「源氏香とその周辺」講演会及び、学生発表会  
学生発表①「香りと人の結びつき—『源氏物語』から」（文芸学部3年生4名）  
学生発表②「現代の香文化」（文科1年生3名 高橋ゆかり・辻田光・渡貫沙耶）  
学生発表③「お香の新しい提案」（生活科学科2年生8名）



- ◆2022年2月 教員3名による松栄堂長岡京香場、京都本社香房・薫習館での実地踏査
- ◆2022年3月 本学2号館コミュニケーションギャラリーにてプロジェクト成果展示会「受け継がれる香文化」実施  
パネル展示タイトルは以下の通り。  
①「伝統的な薫物と現代文化」岩上茉奈  
②「『源氏物語』の四季と香り～印香「姫の香」に合わせて」草薙みづき  
③「平安時代の香文化」津曲美和  
④「文香の継承」桑原由佳  
⑤「香りを食べる」黒澤彩花  
⑥「お香から見た生活～歴史と現代の共通点」林玲奈  
⑦「新感覚！？衣類のお手入れ術」稲葉渚・小田川彩花・鈴木七海・角まゆき  
⑧「日本の香りパート1」登坂美里・山越さら  
⑨「アート×お香」小淵春菜  
⑩「香りとファッション」館山友理恵



- ◆その他、学生有志により、松栄堂銀座店、lisn（リスン）青山など、「香」販売の店舗を訪問  
引き続きコロナ禍の中でのプロジェクトであったが、前・後期の二回の講演会は完全対面で行った。伝統文化としての香を学び、嗅ぎ、見、触れ、考察する機会が持てた。学生たちはGoogle meetを活用しての打ち合わせなどを多く用いて、発表や展示に関しても充実した発表や成果物を作成してくれた。

### 《考察》

このプロジェクトを通して、伝統文化としての「香」に親しみ、関心を深め、新しい価値観や視野を身につけることができた。実用品としてのみならず、「香」が教養の一つであったことを、文学・文化史を通して実感できた。最後に、SDGsと香文化のかかわりをあげる。

- [目標4 教育] 想像/創造力を育む、香りを自己表現の方法とする。
- [目標12 つくる責任つかう責任] 手入れを通じた製品への愛着、自然と調和したライフスタイル意識の向上。
- [目標17 実施方法] 文学・文化という精神活動を通して世界とつながる。



### 《謝辞》

本プロジェクトを行うにあたり、大変お世話になりました株式会社松栄堂社長 畑正高氏ならびに、スタッフの方々に厚く御礼申し上げます。